バンパイアハンターD

Vampire Hunter D

6

聖魔遍歴

原作
菊地秀行
Hideyuki Kikuchi

作画
鷹木骰子
Saiko Takaki

菊地秀行 著『吸血鬼ハンター6　聖魔遍歴』より

ドドドドド
コツン
ドドドドド
ドドドドド

ミスったな クレイ
おれたちゃ 礼儀知らずは 嫌えだぜ
――若いの
ほう
こいつぁ 驚いた
瞬は化けられても 足音は年相応な もんだがよ――
残念 だったね 坊や
あたしも 無視されるのは 嫌いでね
ニヤ。。

外辺境一の
使い手だからって
年寄りには
相応の敬意を
払うべきじゃ
ないのかい

あの婆さん
ビンゴとクレイ
――ビューロー兄弟に
喧嘩を売る気だぞ

何の
用だい？

あたしゃ明日
砂漠を越えて
内辺境まで出向く

一緒に来て
欲しいのさ

おい 兄貴――
見ず知らずの
婆さんが
砂漠の旅に
付き合えとよ

見ず知らず
ではないな

済まんが
睡眠中だ
礼儀正しい
挨拶はできない

〝人探しの
バイバー〟
婆さん

挨拶なんざ
どうでも
いいよ

で どうなんだい
返事は？
報酬は弾むよ

あたしと
もう一人の
護衛だ

悪いが
どうでも
来てもらうよ
ヒィ!
待ち人が
ある
どうしても
嫌かい?
……

ハッ
ゴオオオオオオ…

ソーントンという客がいるはずだ
あんた…Dさん…で？
奥の部屋に…
お初にお目にかかる

おれは
ビンゴ・
ビューロー
という
こっちは
弟のクレイ
少しは
知られた
名だ
辺境一の
吸血鬼ハンター
ひと言挨拶が
したいものだが
ほお
こりゃ
驚いた！
ビンゴ・
ビューローの
誘いに
背を向けたまま
男がいるとはねえ

――気に入った！
気に入ったよ あたしゃ
私が ソーントンだ
時間通りだな
吸血鬼（バンパイア）ハンターD
手紙を出したのは他でもない
君に秘薬を渡ってもらいたいのだよ
それが――
君にとって重要な意味を持つある人物からの依頼だ

エンエン
ヤイ…
お邪魔さま
いや 名前だけは 知ってたけど こんなに 凄い男だとは 思わなかった
男前も もちろんだけど
あのビューロー兄弟を 無視できる人間が いるなんて 信じられなかったね
最初はあの二人に 頼むつもりだったけど もういいさ
あんたに 決めたよ！
……
何の用だ？

来て欲しいんだよ
あたしたちと一緒に砂漠の果てのバーナバスの町へ
明日を入れて四日以内に着かないとまずいんだ
砂漠を迂回してきゃどうしたって1週間はかかる
砂漠の広さからいってギリギリの日数だよ
ここは何が何でも腕の立つ護衛が必要なのさ
料金はたんまりはずむから…
何故だい？
帰れ
ゴゴゴ…
断っ
よしとくれ！
ひっ
おまえさんあたしを殺す気かい？もう百を超えてるんだ
心臓発作を起こしたらどうするつもりさ？

ウオオオオ
やめとくれ！
この娘も——
この女の子も
死ぬよー
……あ
やめとくれったら！
ドロッ

この娘はタエ
――隠されっ子だよ！
しかも相手は貴族なんだ！

…あたしの商売はご存じかね？
神隠しに遭った子供ー隠されっ子探しさ
隠されっ子ってのが綺麗な綺名でね

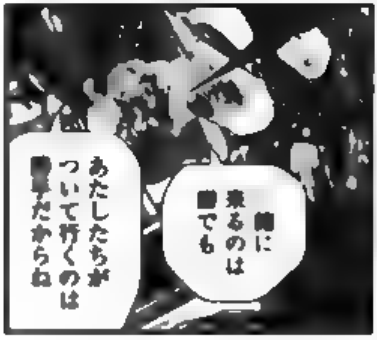
この娘は正真正銘の隠されっ子だ
10歳の時にさらわれて8年間も貴族の城に閉じ込められてたんだよ
グラディニアの城で死ぬ思いして救い出したのさ

貴族と言ったな

その貴族
――何という
名前だ？
何してるんだい
さっさとお答え
……
燃れ

昼間を内と外に分けるその砂漠は
『帰らざる砂漠』と呼ばれ
恐れられている
どこまでも続く黄金の大地と
一切の生命の存在を許さない鉛色の空

あんたの目的は
知らないが
砂漠を抜ける以上
行く先は
バーナバスの町
しかない
あたしたちと
同じ場所さ


隣に
乗るのは
誰でも
あたしたちが
ついて行くのは
賞金首だからね

この砂漠を渡って
戻って来た者はいない

……
あの二人
ついて
来てるよ

狙いは多分
あんただね
噂なら
旅が終わって
からにしておくれ
こんな貴重な護衛を
あたしゃ失くしたく
ないからね

いつの間にか
護衛にされとる
ん？
何か言ったかい？
じきだぞ
何か来るってことかい？
あんた
この砂漠を
渡ったことが
あるのかね？
昔
この砂漠を
半分まで渡った
旅人のメモを
読んだ
ミシュガルトの
石塔群の中で
おれが見つけた
白骨化した手で
メモを握って
岩の間から突き
ここから
5千キロは
離れてるよー
……そうかい
そういう
ことかい
なんて面白いん
だろうね
――そこで
やられたのかい？
あんたもそこへ
行ったんだろ？

ドゥン!
ドゥン!
生き物だね
初めて見たよ
ーークエ
中へ入っといで

ほっほっほ
ビューロー兄弟も
泡を食ってるよ
ところで
何だい
こいつらは？
わからん
なんだって!?
でもさっき
あんたはじきに
こいつらが
襲ってくるって…
メモに
こいつらの事は
なかった
じゃあ
新品かい!?
ええい
気色の悪い
奴っ来るよ！

追っかけて来ないみたいだね
逆に映画できないだけかもしれないけど
？
射ってみろ
おやり
あの二人も来るね
ちょっとお待ち

!
えり
今だ
おっかない
男だね
あんた

なんでえ
今の銀は？
まだ町から
5キロと
来てねえぜ
おい――
くそ婆ぁ
運が
よかった
ねえ
よくも
よぶけた真似
してくれたな
おかげで
大事な帽子が
この様だ
でも
射てって言ったのは
そっちのハンサムさ
言われた通りに
しなきゃ
斬られるかも
しれないと
思ってねえ

本当か？
奴らの中身を浴びなかったな
そうかいそれが目的かよ
――残念だったなあんなもの浴びてちゃビューロー兄弟の名がすたるぜ
その代わり次に出て来たときに手が打てん
浴びても生命には別状なかったかもしれん
んなことどうしてわかる!?
動だ
ふざけるな！
やめておけ

よしてくれ
兄貴まで
そんな!?
ハンターDの
助だぞ
おまえは
濡れてもよかった
よしなよ
現に無事
だったんだから
いいじゃないか
仲間割れは
よしとくれ
いつから
てめえらと
仲間になった?
あんたらが
町を出た
瞬間からさ
ヒラ
ヒラ
この際
一緒に行くのは
後々便利でいい

!?
旅は道連れと言ってな
兄貴!
くそ 何だいこりゃ?
蝶!?

さあ
どうだい
「超」超越の
火炎超特盛の
味は？
どんどん
かかって
おいで！
虫ケラが
しゃらくせえ！
いくら
喰っ払っても
キリがねえぜ
兄貴？
ええい
うっとうしい！

なんじゃ
あの武器は？
あんたは
まだ
中においで！

なんだ!?

ドドドドド
ドドドドド
ドドドドド

……
はぁはぁ
みんなは？

…イタタ
まったく ヒドイ目に……
きゃあああ！
どこだい 兄貴ぃ
くっそ… ここは 一体？
！

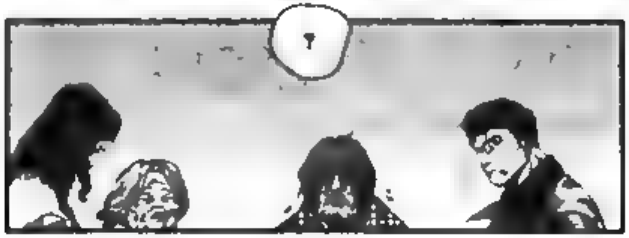
うう
何だいありゃ？
おめぇ——何者だ？
あんた方……どうやってここへ来た？
——あの忌々しい雪原の野郎に乗って空の旅よ
あんたたちも……か？
……やっぱり……おれたちは一生……
ここを…出られないんだ…
うう…

何だ♣？
何だ
あの女
今まで
どこに
D！
あんたも
賞金首だったん
だね
ああ
よかった
その男
何か知ってるかも
しれないよ
こっちで
聞いてみよう
じゃないか

おれの名前は
ランスと
いいます

不死身ぅ
どう
思うね
D？
本当だろう
メモにも
あった
何だよ
メモって？
おめえ
この砂漠に
結構詳しいのかい？
他に何があるか
知ってるのか？

おい
とぼけてんじゃ
ねえよ
独り占めする気か、
静く童


？

それだけか

このままでいいと思ってたわけでもないんだ
あんた方が連れて来られたと聞いたとき
今度こそどんな目に遭わされても逃げようと思ったんだ
連れて来られたと言ったな？
あの首輪を操ってるのは一体何処(どこ)の何者だ？
その死人どもをそいつに使われてるのか？
5年間それくらいは探り出したいものだと注意してきたが人間かどうかもわからなかった
だがその数五が何なのかはおれには見当もつかない
間違いない
ただおれは人間じゃないと思う

脱出しようと
ねぐらの洞窟を
出ようとしても
奇怪なもの
水のかめ
行く手

何かの妖術か
貴族の
仕掛けかね
どう
思う？

電巻は
操られた
ものだ
おそらく
砂漠に

砂漠？
あたしたちを
襲ったものはみんな
この砂漠の指令で
動いていると
いうのかい？

驚くほどの
ことはあるまい
動く森の
話はした

とにかく
この岩山を
抜け出すのが
先決だぜ
おい
婆あ
おめえの
馬車に乗って
出かけるぞ

好きに
するがいい

無駄だ
また竜巻に
引き戻される
だけだ

じゃあ
どうするって
てんだ!?

何か来る
のかい？

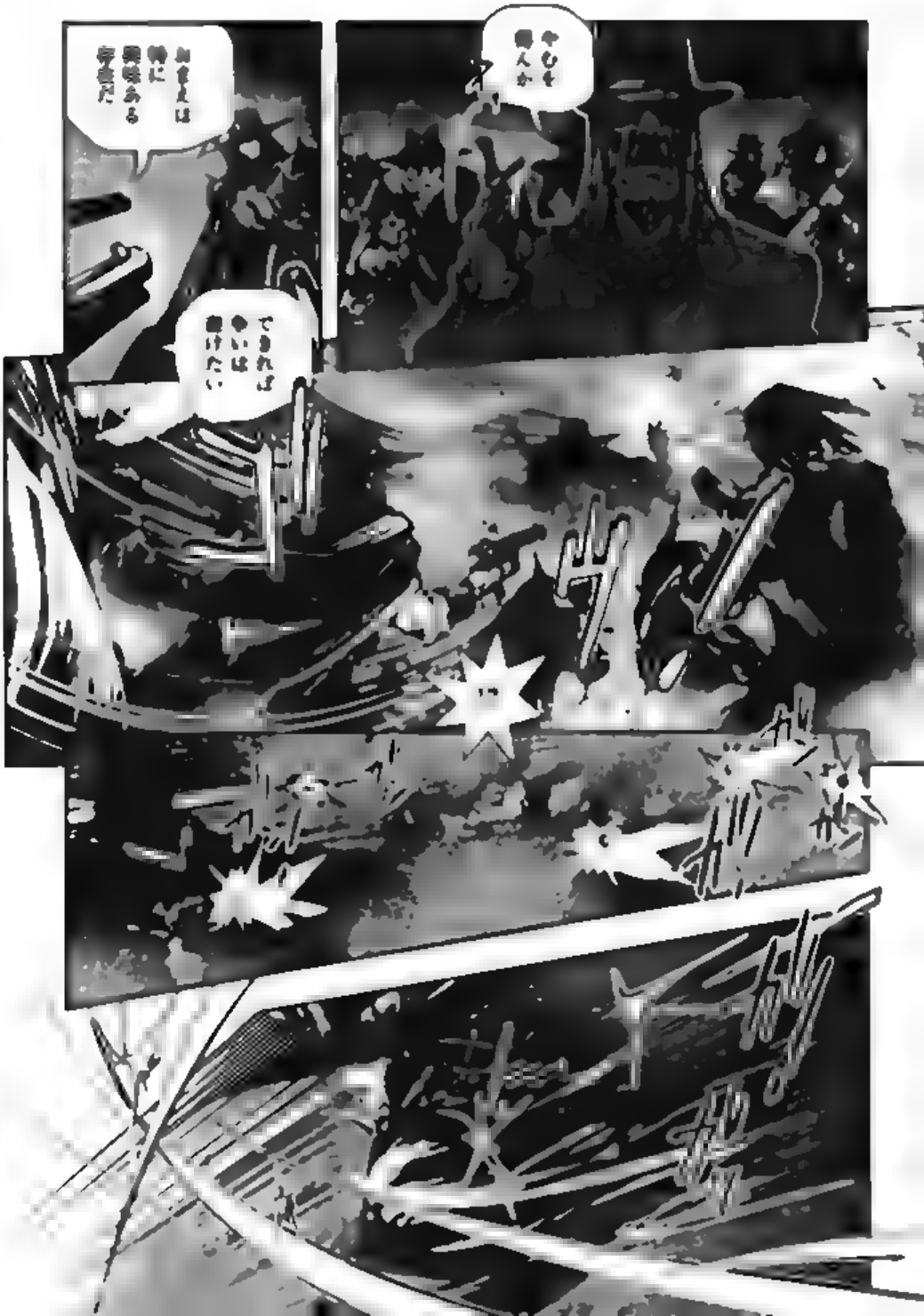
馬だ
10人ほど
乗ってる
…彼の仲間
だろう

連れ
戻しに…
いや
口を塞ぎに
来たかもね

なに10人程度
片手で始末
してくれるよ

D...

あの男を
連れに来た
おまえたちは
誰だ
あの男を
引き渡して
もらえば
おまえたちの
ここでの生活は
保証される
そうしたが
よかろう


やはり
強いか
おまえは
俺に
興味ある
存在だ
できれば
争いは
避けたい

この土地からの脱出路は何処にある？
知らんな
死人は死人に戻る
おまえたちもおれと同じ運命になるがいい
この砂漠でわけもわからん存在に飼い慣しにされ死んだら生き返らされて……
……ははは……いい気味だ

ほっほっほ
こんで
手間さりか
あのランス
とかいう男が
脱出路を
知っているとも
思えんしな
化け物だな
おめえ
10人中
2人と
かからずに
ますます
楽しく
なってきたぜ
このおれの
手でよ
それは
勿論を
開けてからに
しておくれ

おれぁ
外を覗いて
くるぜ
兄貴はここへは
来ばされてきて
ないみたいだが…
きっと今頃
日干しで
野垂れ死んでるさ
兄貴が
日干し…？
…死ぬ
だって？
そいつぁ
面白えや
是非一度
この目で
見てえもんだ
あんた方
……何者だい？

ただの旅人じゃないと思ってたが…
まるで化け物の集まりだ
何処へ何をしに行くんだ？

あんたと似たようなもんさ
さっきの色男はハンターさ

さ
あんたを狙ってる親らは片付いたよ
もっといい話を俺い出さないかね？

安心おし
絶対無事にここから脱出してやるよ

だといいが…
おれの飲み食いしてた品だってどこから来たのかわからないんだぜ
このままじゃ日干しになっちまう

それを覚悟で逃げ出したんだろうが
どん!
大の男が情けないこと言うんじゃないよ

あたしたちと
出くわさな
かったら あんた
歯をくいしばって
頑張ってたんじゃ
ないのかい？

腹が減ったんなら
あの馬草に
食料があるさ
食わせて
やるから
一緒においで
ありがたい
出来れば
ヒゲも
剃りたいん
だが……

お婆さんが…
私を置いていったわ
あなたなら安心だと思ったのかしら…
…誰よりも怖い人なのに……
…帰れるなんて思わなかった……
一生あの貴族の城で暮らすのかと思っていたわ
…城でのことはあまり憶えてはいないけれど……
城の名も
貴族の名を覚えているな
…クラディニアのお城です…
貴族の名は？

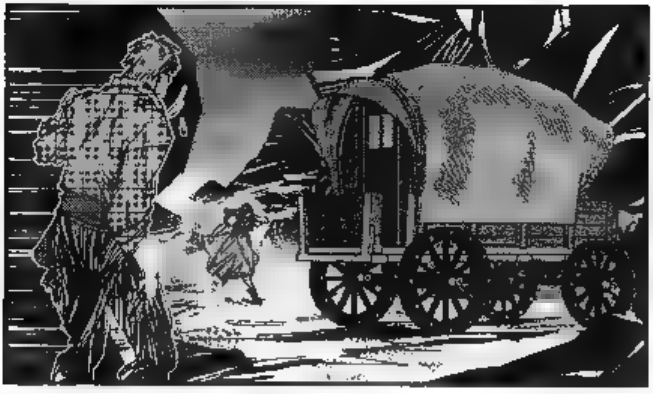
……
ヴェネッ
シガー侯爵
グラディア城は
特殊な出口から
おまえが
会った貴族は
そいつだ
……
それ
だけか？
え？
……
もうひとり
いました…
侯爵よりも
ずっと大きくて
威厳のある…
……顔は
見なかった
けれど…
眼だけが
赤かった
燃える
宝石のように

その通りです
どんな夢をしていたり
そう言えば……どこかあなたに……
……そうだわ…とっても哀しそうな……
何故かしら？
奴は君に何かしたか？

……何も
何も
されないわ
……ただ
出会った
だけよ
君も
そのひとり
かもしれん
奴は
――何を
した？

何をされたって
覚えてないわ
——ひどいことを
訊かないでー

やめて
何もされや
しないわよ

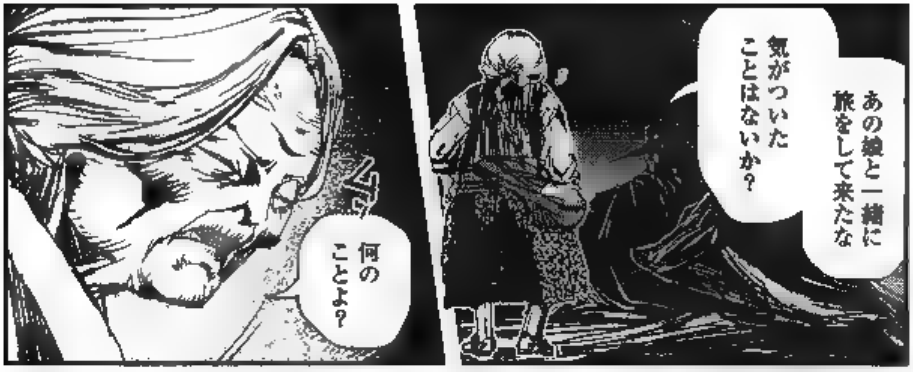


ぱっぱっぱ
…やはり奴が一枚噛んでおるようだな
なあ 何をされたと思う？
してみるとあの娘 どうあがいても不幸にしかならんわ

D——いるかいッ

ここだ
あんた… あの娘になにか言ったかね？ 馬車へ駆け込んで泣きっぱなしだよ

気になるか？
少しはね
——なにせ大事な商品だよ


あの娘と一緒に旅をして来たな
気がついたことはないか？
何のことよ？

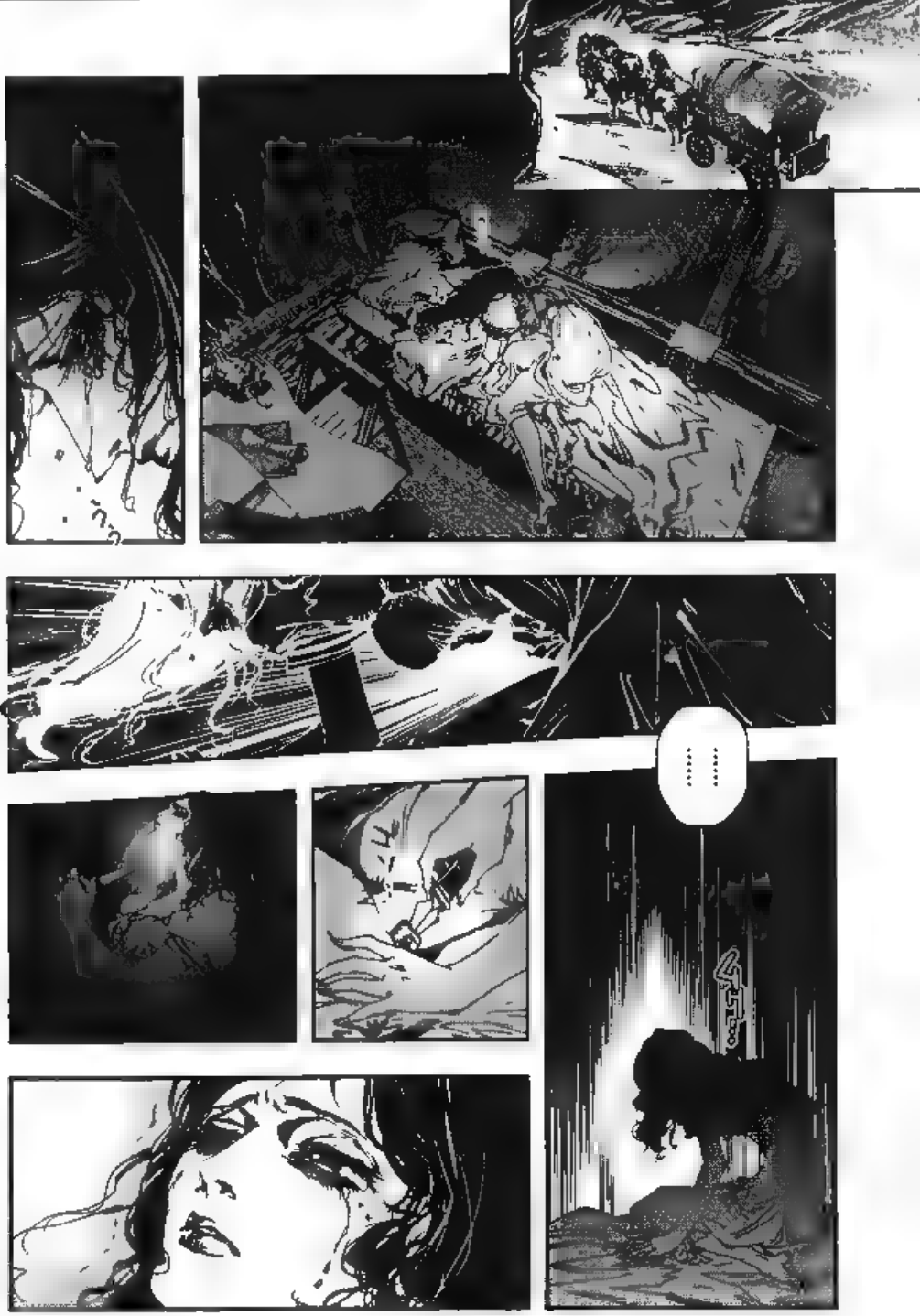
身体の異常は？
精神状態の変調はどうだ？
そりゃあ…それなりのことはあるさ
だけどね年頃の娘が貴族と長いこと暮らしてそれから家まで長い旅をするんだ
異常のない方が異常さね
あの娘は故郷へ帰らねばならん

家族は健在か？
ああ
両親はあの娘がさらわれてすぐ亡くなっちまったが兄夫婦が農家をやってるよ

ひとりならいいが
二人で生きるのは
辛いぞ

どういう
意味さ？

まあ
いいさ
それより
早いとこ
この馬鹿げた土地を
脱け出す方法を
考えておくれ


……
ぐしゃっ

ダメだわ…
ドン
ドン
ドン

よく
お聞き
おまえは
あたしの大事な
商品なんだ
勝手に
傷ものにされちゃ
困るんだよ
あたしの名前に
小っちゃな傷ひとつ
つけさせやしないよ
いいかい
今度おかしな
真似したら
家へ送り返す前に
あたしが殺してやる
ようく
覚えておいで
殺して
ください

何だって？
――
――私は
最初から
帰りたくなんか
ありませんでした
あなたの
気に入らないことが
あるんなら
この場で
殺してください
……家へ
帰りたくは
ないのかい？
……
……
二度と
馬鹿な真似は
しないとお誓い
――
おまえ
貴族に何か
されたのかい？

！
おかしなこと言わないでください！
憶い出なんか――
――ありません
ならいいさ
この砂漠を渡るまで様なことだけ憶い出すようにおし
そうかい
なら先のことだけ考えるんだ
憶い出なんかなくたって人間 生きていけらあね
呉服屋さん？
あたしにだって夢や希望もあるさっさと銭をためて呉服屋をやるんだよ
ああこう見えてもあたしの服のセンスはなかなかのもんだよ
この商売をはじめる前は「都」で子供服の仕立て屋をやってたのさ
結構商売いなったんだよ

長屋屋さん…
こうなったら言っちまうが
その寝床の上の物入れにゃ最新の機械が入ってるんだ
何なら使ってもいいよ
いいんですか？

機械は使えんのかい？
故郷にいた頃少し
ならやってごらん
生地はそこに入ってるよ
無駄にしたらあんたの引き取り手に弁償してもらうからね

……
あのバンパイアハンター
冷たいことを
言ったらしいけど
気にするんじゃないよ
いつも
仏頂面してる
ありゃ他人を
寄せつけないタイプじゃない
ただ
自分の生き方に
忠実なため
辛いことも
口にしちまうんだ
自分に
厳しい人間てのも
しんどいものさ
あの男は――
それが
術外れときてる
身の程知らずで
あたしもおまえも
哀しくって
死んじまうだろう
キィ…
……

――聴いてたのかい？

裁縫機の音だ
やっと気晴らしを探し当てたのさ

……安らぎは〝故郷（ふるさと）の我が家にこそ〟

南西区の村だった
一度会ったことがある
"隠されっ子"に？
さあてね
そのまま故郷に留まった"隠されっ子"がいたか？
辺境を旅するものの格言だが本当にそうかな？
故郷へ連れて帰るなと？
――あんたあの娘のことを言ってんのかい？

何もしなかった
そうかい
じゃどうして？
何かしでかしたのかね？
わからんのか？
わからないね

医者も
男衆は懸しと
諦け合った
両親と暮らした
半年の間も
何ひとつ
おかしな素振は
見られなかった
村中が
可哀想に
事情を話しに
行き添って
けど
死にかかっていた
男の子に
よくそんな細かい話を
する余裕があった
もんだね

最後は手錠に
手錠をかけられて
いったかい
…せめても
じゃないか
対魔に
敗北した女は
悲劇だ

出撃準備
だけでも
しといたほうが
無難だね
ウルフ

そう
いえば……
ダンビールってのは
海の下じゃかなり
■しいんだってね
あんたを殺すにゃ
昼間に限るわけだ
やっぱり
血は争え――
――おっと

ヒヤ
ドキ
あっ
あの
何も・
おれ、
ヒヤ
調べたよう
ハンター
……吸血鬼
ハンター？
じゃあ
あの娘は
？

もうすぐ
陽が沈む
ってのに…
クレイが
帰って
来ないよ
おまえたちに
見せたい
ものがある
一緒に
来い
来たよ
来ましたよ
来い
クルッ
ちょいと
あの二人は
どうするのさ?
馬車に…
もう
連れて
行った

後にしろ
あたしはともかく
あのDを
出し抜くとはね…
なんでさ?
用があるのは
嫌っているものだ
ここで
術を解いても
何も知らない男が
残るだけだ
ふむ

一体
どこまで…
――
おまえたちの
ような存在――
人間は
はじめてだ
二人は
どうしたい!?
私の世界の外には
さまざまなものが
ふるい込める
片っぽはともかく
女の方は
大事なお客だ
おかしな
真似したら
承知しないよー
こちらの方は
いま
調べている
あれもなかなか
興味深い人間だ
ふん 人■なんて
ランスひとりで
十分■■済みじゃあ
ないのかい

おまえは
砂漠
そのものか？
——そうか
女ははじめて
なんだね
——いや
……
——そうだ
いつから
意思を持った？
わからない
心当たりが
あれば
教えて欲しい
ものだ
おれたちを
どうする
つもりだ？
情報を引き出し
あの男のように
飼い殺すか？

ここを出る

そんなことはせん
しようとしてもおまえがそうはさせまい
あいつなど比べものにならんほど危険な人間だ
ならどうする？
――その算段はそっくり返そう

――よかろう
おまえと争うのはきわめて危険なことだとわかる
何もせんから何もするな

今
出ていくぞ
好きにしろ
おれにはどんなつもりもない
おまえたちがついて来ただけだ
じゃあ今度もついていくよ
文句はないだろうね？
あたしたちが危なくなったら力を貸してもらうよ
ちょっとお待ち！
仇の知りたいことは他の連中からいただこう
あんたまさか…
あたしたちを置いて出て行くつもりじゃなかろうね？
！
おまえたちには まだ用がある
あの男は真切りの首…処分するが
おまえと後の二人は ゆっくりと調べさせてもらおう
ブルブル

助けておくれ
—D
安心しろ
すぐか
一人命を奪うようなことはせん
—D
人間のことを知るのは重要なサンプル
ひとつ
飲かせて
もらおう
あたしは
いいんだ
あの娘を
—クエを
助けておくれ
人を知って
どうする？
無事に
出られればだけでも
ありがたいと思え
助けて
おくれよ
D

ヒアアアアー……

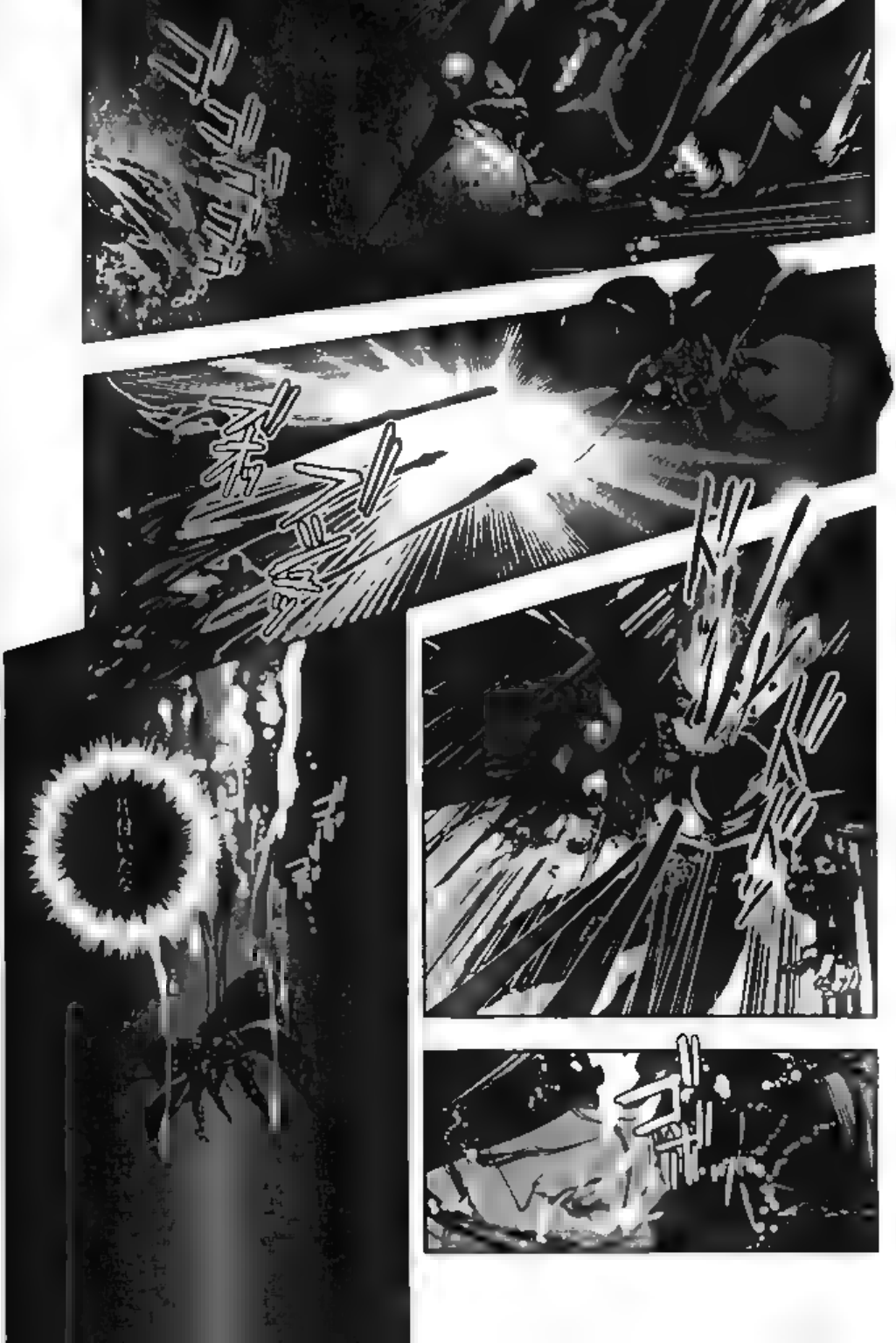
この風
なかなか
いけるぜ
うまいぞ
ゴオオ
ゴオオオ……

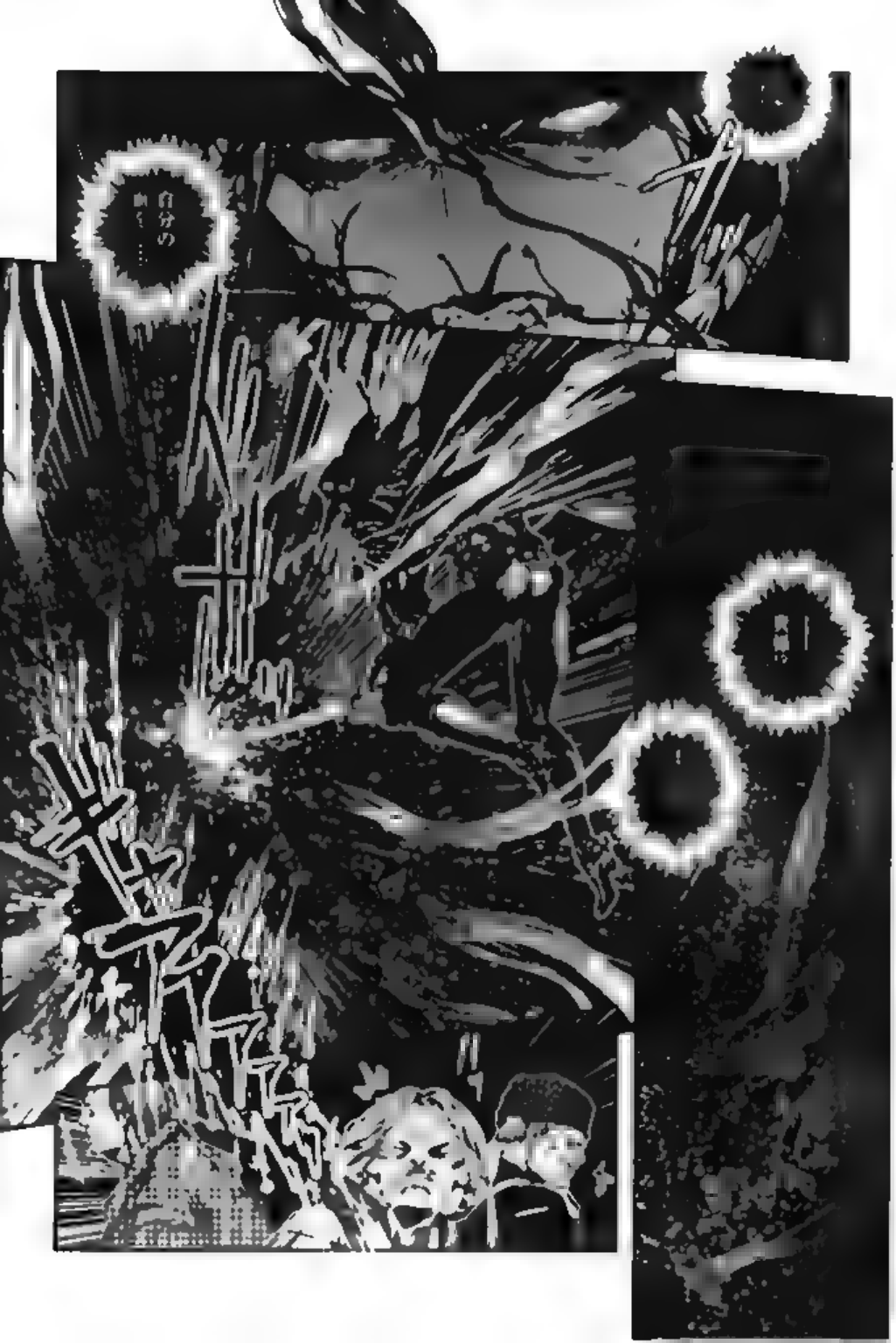
カッ
カッ
馬鹿ものが
――ついに
来たか
……
Dかい？
出られる
かい？
わからん
何も
見えないわ
…ここは
どこ？

少し気分は暑くなるが我慢しな
こいつは…？
心当たりがあるのかい？
見張りだ
触れると麻痺するんだ
面白え
ざまあみやがれ
やっちまいな
ゴゴゴ…
ドドドドド
ドドドドド

何かいるよ!?

オオオオ
…げ…
幻覚なんだよね？
…D？




自分の

…やっぱり
全部幻覚
だったって
わけかい

…D？
手応えは
あった
ここを出るなら
今が得策じゃぞ

後は
まかせた
20分後に
出るぞ

ああもう
ずっと乗ってるのにこの揺さ何とかならんのかねえ？
Dねえ
――この砂漠に止めを刺すにゃどうすればいいんだい？

へっ
わかりゃあ
しねえさ
誰にだって
そんな術はずれな
答えが出る
もんかよ
まあ
そう言わずに
あんたを助けるのに
あの男だって
少しは力を貸して
くれたんだから
けっ
操られてた
あんたを
ね
借りはいつか
返してやらあ

それよりよ
あの二人を
一緒にさせといて
いいのかい？
仕様が
ないだろ
あんたと違って
あの二人は
並の人間
なんだから
どう
したね？

砂嵐だ
約2キロ先だな
…何も見えないよ
竜巻かい？
砂嵐だ
真っすぐ行けばぶつかる
迂回する手だな
そんな余裕はないよ
遅れちまうじゃないか
あんただって困るだろう？
ただの砂嵐ならいいが
いい加減なこと言うんじゃねえよ
おれには何ひとつ見えねえぜ
おれには見える
……

――それとも
行ってみるか
えらい！
ぎゃ
こなくっちゃ
なんだい
最後の
ひとつ
みたつ
ヒュッ
ヒュッ
ヒュッ

待ってくれ
タエさん！
どうした!?
復活したらしいぞ
何があったのよ!?
わからない
雨をしていたら急にスパナで殴られた
…そこにおいで
あたしがなんとかする

Vampire Hunter D

バンパイアハンターD

原作 菊地秀行

作画 鷹木骰子

6

Vampire Hunter D

菊地秀行 鷹木骰子

6

9784840140843

ISBN978-4-8401-4084-3
C9979 ¥667E

1929979006679

定価：本体667円（税別）
雑誌52651-84
メディアファクトリー

企業秘密さ
D——
そっちは
どうだい？
小休止だ
なら
行っとくれ
あの娘は
気絶してるよ
何やったんだい
婆ぁ？
あの砂は
一体
何だ？
あの婆さん
一体何を
やったんじゃ？

静くな
――声があった
わかりません
D
ランスさんと話している間に
外へ出なければいけないような気分になって
外へ出ろって声が――
!
イル

ア
ア
ア

水が
やられたよ

その線が
途切れるとき
タンクの蛇口を
開けてったんだ

いま
止めたけど
この人数じゃ
半日ももたない

単分になりゃ
皆は保つぜ

そうだ
ねえ

役に立たない奴が
水を飲む必要は
ないわけだ

4人なら
どれくらい
保つ

そうだね…
ギリギリ
1日と半

どっちにしろ
町に着くまでは
保たないよ

保たせろ

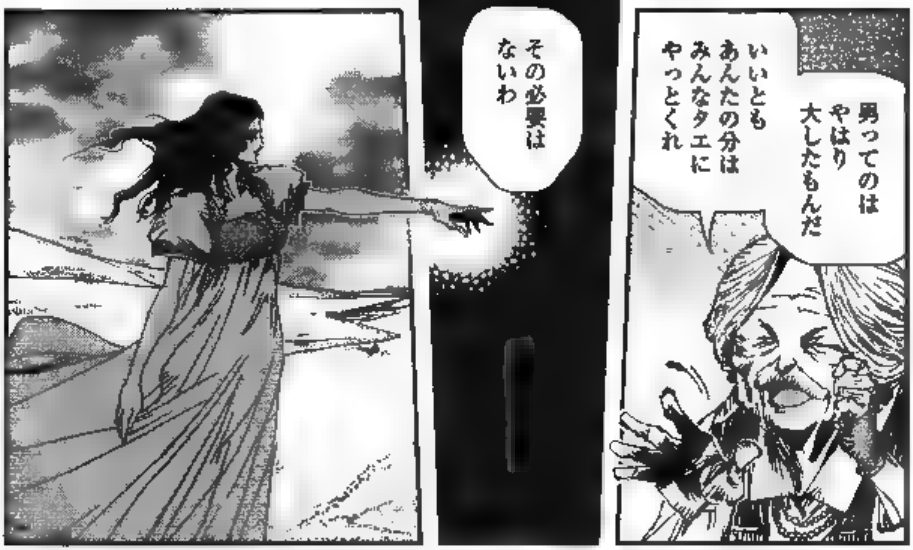
…なんとか
なるだろう

けどあんた
最後の道行きは
あたしたちより
辛いはずだよ

夜で
構いは
つく

おれの分は
皆にやれ

聞いたね
あんたが
他人のことを
気にする
なんてさ
せっかくだけど
それはあたしと
タエでいただくよ
…おれも
いらねえ
こいつが
飲まねえのに
おれだけが
喜を満すわけには
いかねえよ
ひとりで
いい思いを
したなんて
言われちゃあ
一生の恥だ
おお おお
泣かせる
台詞だこと！
あたしも
長く生きてるけど
こんないい台詞は
聞いた事がないよ


男ってのは
やはり
大したもんだ
いいとも
あんたの分は
みんなタエに
やっとくれ
その必要は
ないわ

何だろうね？
連れ戻す必要はなかったかもしれんな
こっちよ

砂嵐が
気になるのかい？

水が
欲しかったら
御者を
かわってくれ
ちょいと
あんた

まったく…
一体どこへ連れて行こうってんだ
もう3時間も歩いてるよ
大丈夫なのかねえ。
なあ あんた
おれと代わって御者台へ来ないか？
この方が楽だぜ
最後だってあるしよ
気にするな
ごもよ

おれは
慣れている
馬に
乗ったことは
あるのか？
少し
歩かせる
くらいは
できるぜ
？
おまえの仕事は
荒野を緑に
変えることだ
それも
自信が
なくなって
きたよ
なぜだ。
あんた方
みんな凄い力を
持ってるしな
それにくらべて
おれは
ただの百姓だ
土地を耕して
植物を植えるしか
能がない

いざ砂漠のど真ん中へ来ちまったらあんたたちの手を借りなきゃ自分で自分を助け出すこともできやしない
情けなくなってきたよ
——なあおれはいま25だハンターてなこれからでもなれるのかい？
どうだ
けっ
再起が気前になれるくれえならこの世はハンターでいっぱいだぜ
おめえにお似合いなのはお野菜ハンターか雑草ハンターよ

それでも
いいかなあ
けっ
ああ
おれも
もう少し
ダンビール並みに
旨でも
感えりゃあなあ
おっ
なんだ
ひっ
ひっひっ
何が
おかしいん
だよ？
これが
笑わずに
いられるかい
ダンビールに
なりたいなんて人間に
はじめて会ったよ
なるほど
盲点てのは
物を知らない
もんだ
一生
冒険するが
お付合いだよ
ダンビールの
冒険が
おかしいんだ？
冒険な
ことじゃ
ねえか

どこから
どこまで
決まってる
その
着いのを
ごらん
……？
弄の打ちようも
ありゃしない
どんな女だって
いいや 男だって
ひと目見りゃあ
ほうっと胸に
血が上っちまうさ
けどね
あいつはいま
死ぬ思いで
道を歩いてるんだよ
ダンピールが
人に恋慕
されるって？
雨の光は
ガスバーナー
みたいに肌を焼く
流れ水に落ち
まじむに
手も動かない
ダンピールが
村にいる間は
女性はずっと
生きた心地がしない
ひといちばい
雨が来ないと
出てくるんだ

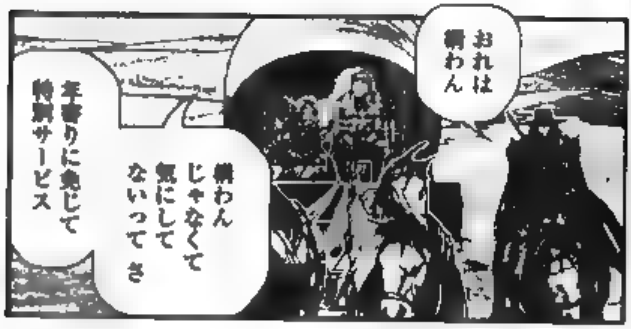
そのくらいは
まだ■■■できるさ
でもね
ダンピールは
■■した手足は
■■が剥げるまで
■■■して
■■■■■
■■■■■
■■■■■

あっ
あっ
あっ

あたしと
したことが
こりゃあ失敬
ね 今のは
なかったことに
しておくれ
ね みんな

——いいだろ
D？
そんな
怖い顔しないで
おや
それが普通の
顔かい
まいいや
とにかく
気にしないって
言っとくれよ

もう
やだよ
年寄りの
ヒステリーを
真に受けちゃ
ね
お願い
ひと言
気にしないって
言っとくれ


おれは
構わん
構わん
じゃなくて
気にして
ないってさ
年寄りに免じて
特別サービス

ありがとさん！
気にはしていない
増えもんだな
ダンピールもよ
ポリポリ

なるほど

これが「動く墓」？
――奴の墓かね

十中八九そうだ

これじゃあ
百姓なんか
やる気が
なくなるかも
しれないねえ

この香は
――水だ
アッ!?
このくそ
いまいましい砂漠も
少しは思いやりが
あるらしいね

我々が
死んでは
困るだけだ

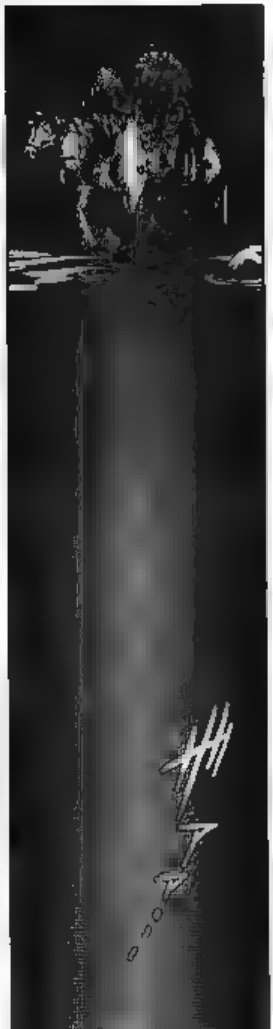
そういう
考え方してちゃ
ハンターにでも
なるしか
ないやね

こいつ…
いい
ひとまず
するぞ
ウェ…

何もなさそうだな？

無事かい？

泳げそうだな



これでもう
水の心配は
ないね
クエは
どうしたっ
ランスと
馬車の中さ
またか
懲りねえぞ

おい
ちょっと
出て来な
話が
あるんだ

はい？
男の方だよ
用があんのは
——ちょっくら
酒場こもうと
思ってね
乱暴は
やめて
ください
おれと
かい
この人は
私の治療を
してくれた
だけよ

安心しなよ
姐ちゃん
おれは
こう見えても
戦闘士の中じゃ
紳士で通って
るんだぜ

D――
お嬢さん
止めて

いいって
ことよ
男の喧嘩なんて
こうでもしなきゃ
決着が
つかないのさ

あんたも
自分のために
男同士が
やり合うってのは
どういうことか
よく考えておおき
それが
済んだら
戦闘だよ

D

見ない

その辺を調べに行ったんだろうさ
私――探してきます
ちょっ…お待ち
……
ま――しゃあないか
年頃だし
あんたたち
世界一の間抜になりたくなければいますぐにおやめ
…

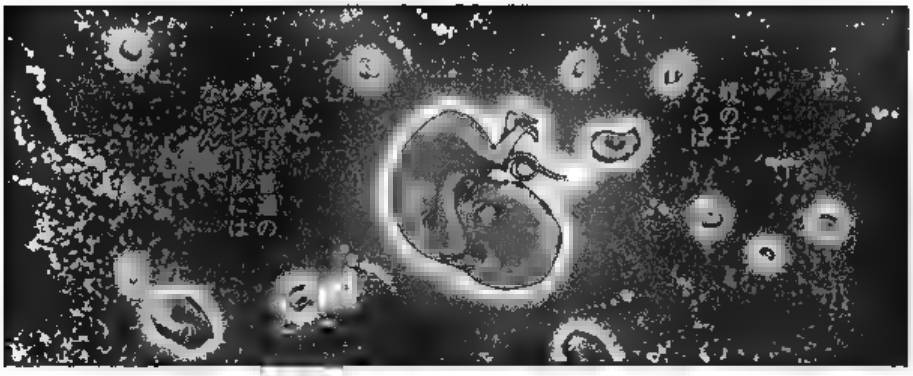
あっ
ｱｱｱｱｱｱｱｱ

一両をしに来た!?
あの——
クレイさんとランスさんが喧嘩を——
この人には関心ないんだわ
他人のことなんかどうだっていいのね
こころの中まで氷と闇でできているひと
冷たい男(ひと)——

ダンピールには貴族の他に人間の血が混じっているというけど
それは嘘
あなたは冷たくて暗い貴族の血しか流れていないんだわ！
あなたならと思ったのに
あなたみたいな男がダンピールならと私うれしかったのに……
腹の子はどちらの子だ？

何のこと？
君は妊娠している
どちらの貴族の子だ？
知らないわ
奴か？
奴か？
……どうしようもなかったのよ

私に何ができて？
あいつらは指一本で私を殺せるのよ
言うことをきくしかなかったわ
…その子の場合って
どういうこと？
普通ならな
その子の場合は兆候に気づいてから約半年後
——ねえ生まれる月がわかる？
普通なら十カ月と十日だそうだけど
いつ気がついた？
……城にいるときから


女の子ならば
その子は
なんん
なんん
なんん

あなたと
関じに…

Card

ガク…

面白いが
酷い話
じゃのお
この娘
どんな道を
たどるのか…

そういえば
この砂漠も
昔なつかしい
匂いがするのお
おまえも
気づいて
おろう?

前に出会った女が
言っておったな
どうして
とてもいいことが
悪いようになって
しまうのか と
どこでどう
狂ったのか
いいことだと
思うか？
わからん
ランス

無事だ
おれが眠らせておいた
10分で目が覚める
参ったな
よくおわかりだね
クレイの馬鹿はそっちの棚ぼん中で伸びてるよ
あの野郎——なかなかやるよ
でもクレイのやつもいいところがある
最後まで素手でやりあったんだ

あいつに勝ったそうだな
——昔は悪魔鬼でな
それに素手なら百姓に勝てっこないさ
村へはよくハンターや戦闘士が来て格闘技も教わったよ
奴も相手が悪かった
ドゥ!
原因はあの娘か？
そうだ
本気でやりあったな
ガシッ
えっ

そこにいやがったのか百姓
二回戦といこうじゃねえか
嬢だとは言わせねえぞ
——おれが勝ったら
あの娘に一切手は出さんともう一度賭え
ああ いいとも吸血鬼ハンター"D"が証人さ
おおおおお

ぐえっ
二度はふるまい
はは

いらん
そうかい
――相手を間違えたよ
やるかい？
ぶおお

最期
あんたに言った
ことだけどさ
――気に
しないで
おくれな
あたし
ばかりじゃ
ない
聞いたら
タエも
ひどいことを
言ったそうじゃ
ないか
この通りだ
勘弁して
おくれ
気にするな
そう
かい
ああ
ありがたい
あんたがそんな
根性の小さい
男だとは
思ってなかった
けど
やっと
安心したよ
この先も
よろしく
頼むわ
……
……
知って
るんだろ
あんた

あの娘――
妊娠してるのさ
多分――
貴族の子だ
始末がつけられなきゃあ
遅かれ早かれ
生まにゃなるまいね

どうする気だ？

おや
――人の運命に関心が持てるのかい？
――もちろん連れて行くさ
それが仕事だからね

――ねえ
子供はどうなるんだろうか？
やっぱりダンピールかい？

貴族の子なら

いっそのこと
あんた面倒見て
やったらどうだね？
同じ
ダンピールだ
あんたぐらいになりゃ
ハンターにならなくても
ダンピールが
生きて行ける方法を
知ってるんじゃないの
そう
思うか？
思うよ
ならば
おれは何故
ハンターを
している？
あんた
ぶきっちょな
だけさ
普通の人間の
中へ入って
のんびり
暮らすなんて
ブライドが
許さないんだよ
それに
あんたは……
何かを
追い求めているね
何だ？
他のハンターの
心には
抜けてる単語
〝明日〟ってやつを
あんたは求めてる

笑わないとくれよ
最初から縁のない奴とそれを求めているものとはえらく差がつくってことさ
ただあんたの場合はもっと別の何かだって気がするけど
"夢"
"希望"
"虹"
それに——"愛"
何だと思うか？
わからないあたしには想像もつかないよ
でも探し求めるものがあるには違いないさ
それをタエの子供に教えてやることだってできるだろう
そうしておやり
なに 故郷へ連れ戻したらもう あたしに用はない
ひっさらって逃げちまやいいのさ
残念だがおれより適任がいる
ん？

話は聞いたよ

余計なことを
――あんた知ってて聞かせてたね

おれにはよくわからねえがなんとなくやっていけそうな気がするんだ

何をだよ!?
いやその――
あの娘と一緒に暮らしてだな

寝言は寝てからお言い

子供のことならまかせておけ
いちばん性に合った生き方を見つける手伝いをするよ
世の中そんなに甘かあないよ

ダンビールってのはね
男も女も美男美女が多い
赤ん坊や幼児のころときたらまるっきり天使さ
ダンビールと知って言い寄る奴らだって山ほどいる
ところがいざ貴族の血が目覚めたとなるとうんとこさ甘い言葉で近づいた奴らが
真っ先に逃亡しちまうんだ
おまえだって必ずそうなる
男子のいいこと言うんじゃないよ

いいこと言うぜくそ婆ぁ
あの娘はなおまえみたいな百姓にゃ勿体ねえ
この旅が終わるまでにおめえはおっ死ぬんだ
そうしたらあの娘が誰になびこうが自由だぜ
あんたになびくとお思いかい？
鏡に相談おし

あんた
その髪型は
少し変やないか
ふざけるな
おやりよ
あん？
へ
おれさまの
生命を守る必要を
おめえらごときに
教えるかい
あの娘の
ためでもいやか

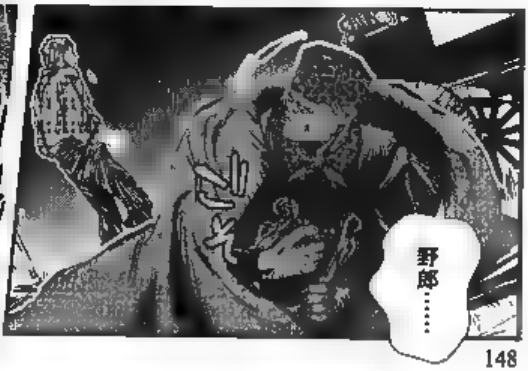
ねえ
あんたも一曲
聴きたいだろ？
どう
する？
てめえらの
腐れ耳にゃあ
勿体ねえが
とっておきのを
一曲聴かせて
やらあ
ひょお！
美声に聴きほれて
滝壺に飛び込むんじゃ
ねえぞ

ほう
なかなか
腕に執行おすいい執事じゃのう

ヤーアァ…
パ!
パ!
やるもんだねえ
わかったかくそ婆ぁに百姓
ポン
男を見る眼があったらといつが一番か一発で見分けがつくってもんだぜ
どうだい故郷へなんぞ帰らず——
おっと
この百姓が生きてる限りあんたを口説くわけにゃいかねえんだ

ま 騒ぐ息わ ないでくれ
殴ったら どうだ？
そうする かね
くそ！
内部へ お入り
……

……
おれ……


野郎……

……
人間とダンピール
――先のことは
誰にもわからん
――一緒に
暮らしたい――

ランス！
馬車へ戻れ
何事だい!?

耳を
押さえて
伏せろ！
何だい
ありゃ!?

来るぞ！
森を抜ける
ついてこい！
見えねえぞ畜生！
タエ――照明虫をお出し！

ランス！
ええ
無事だったか？
出口だ！
心配するな
いつでも守ってあげるよ
感じてるわ

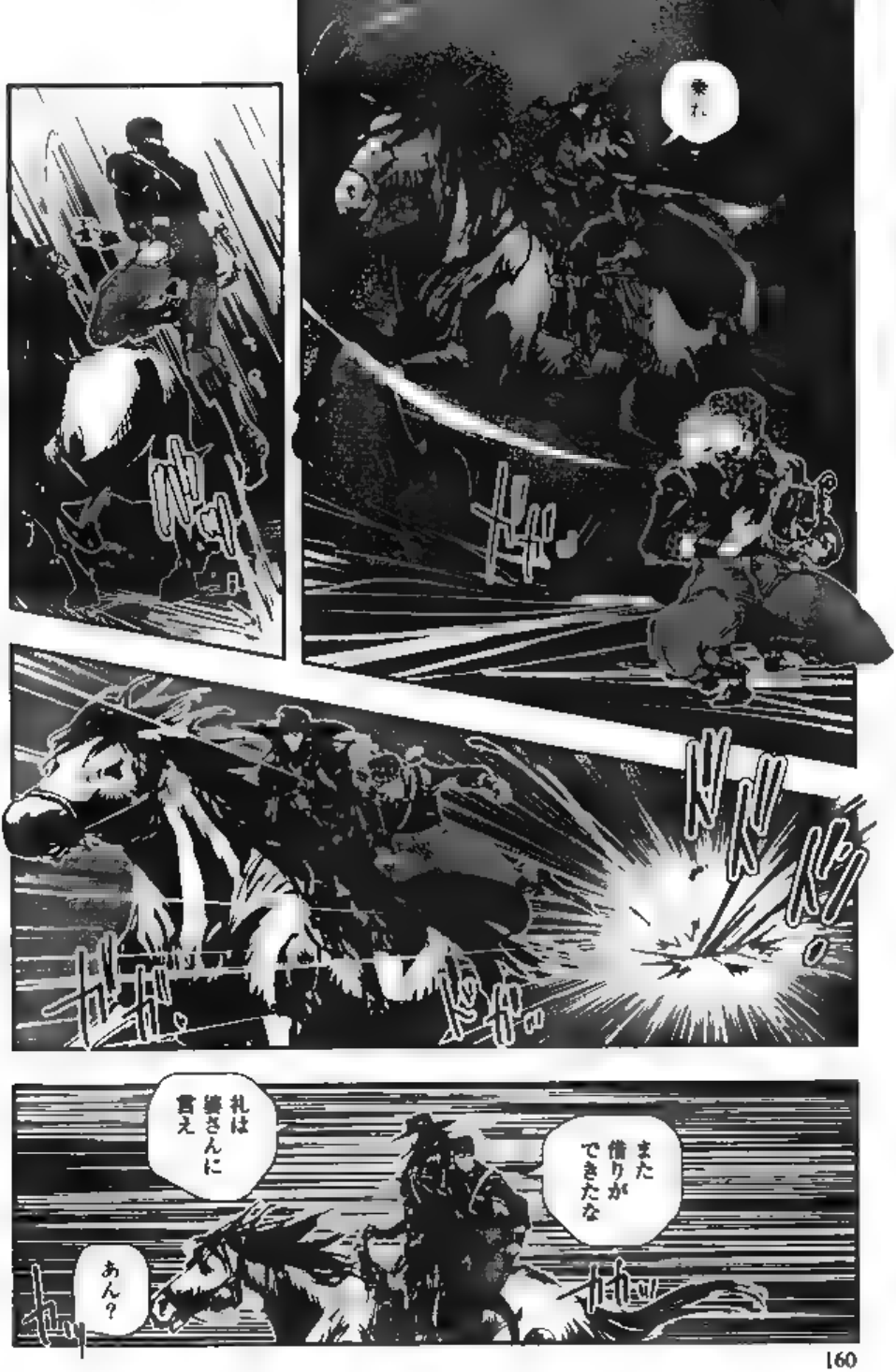
走れ！
まだじゃ
と
と——

ゴゴゴゴゴゴ……
森が…動いて
ズズズ
——D
これも幻かい!?
いや本物だ
そうかい
なら
あたしにも
戻せるわけだ
スッ
サラ…

ズズ…
ゴゴゴゴ

お婆さん——
さてと
クレイが
魔の中に
まだ…
私——
錬明虫を
落として
しまって…
騙ったれ！

ちくしょう!
出口はどっちだ!?
ドアア
クソっ


乗れ
また借りができたな
礼は嫁さんに言え
あん？

助けに行ってくれと叫ばれた
けっだらしのねえ猿あだ
じゃなんで止まってやがる!?
見ておいで
あたしの術を
風がスピードを上げたよ!
はやく!

森を…
消しちまった…
あーあ
年甲斐もなく
しんどい真似
しちまったよ

……
どうしたね？

ランスさんが
亡くなったわ

…D…
あんたが
立てたあれ…
おかしな形の
墓だねえ
月牙が
雪峰の前に
巻っちまい
やがって
無用
しおって…

我ら 愛しきものを送らん
汝が国の平穏の扉に
汝がやさしき腕の夢に
地をさまよいつつ我 汝を求めしも
答えなく
更し世に影のみを見ん

……
……忘れて
しまったわ
不思議ね
貴族の城にいた頃は
毎朝 祈りを
欠かさなかったのに
我ら 大ならずされど小ならず
遠く去り また生まれる
ゆえに呼べ 遥かなるものなりと
されど 我 恐るるを知らじ
沈黙の言葉を知り
見えざるものを見るが故に
D…
我ら水なり
水は我らなり

さあ
行くよ
ゴッ
ゴッ
…なんか
前と違うぜ
復活
しやがった
砂漠も
進化したか
面白え
どいつもこいつも
バラバラに
してくれるぜ
D――
誰か来るよー

兄貴！
いかん！
馬車に乗れ
消されるぞ！
ポン
ポン
ポン

パチ
ボ
ボ
ボ

弟が
世話になった
ようだな

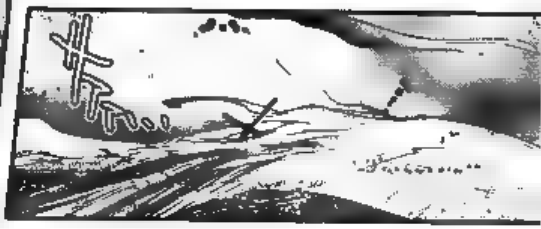
まだ
一緒にいる
のか？

これから
どうするね？
もうすぐ
夜が明ける
けど……

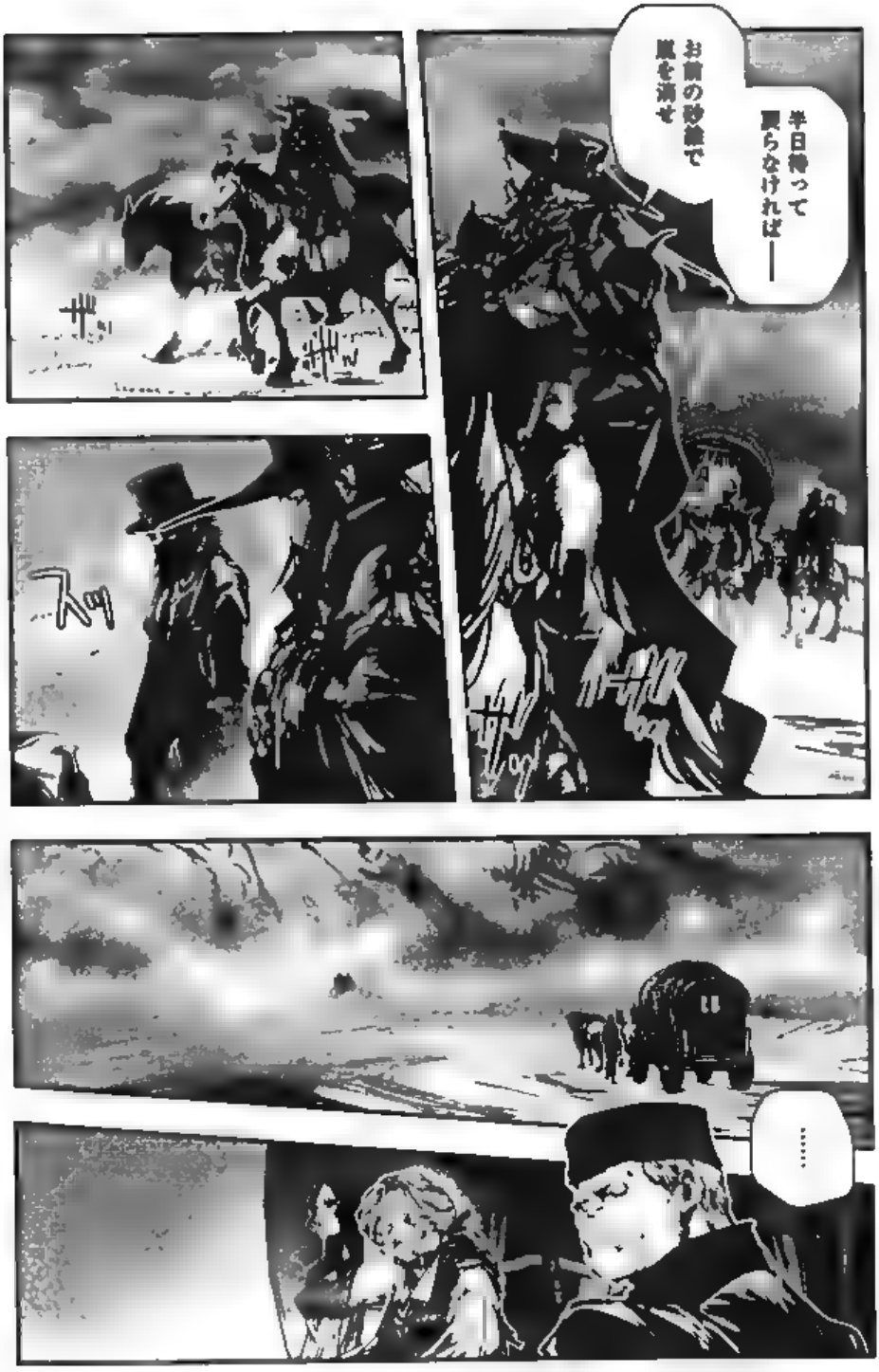
砂嵐へ
戻る

砂漠に
止めを刺す
どう
やって？

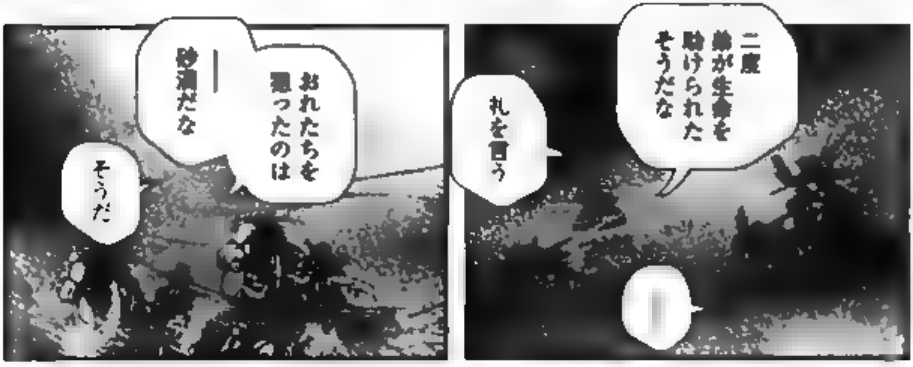
なんだって？
冗談じゃないよあたしゃ――
正解だ
？
見て来たのか？
まあ
早いところ安らかにしてやるべきだな
行くぞ
もう仕事がない男だね
言い出したらきかない

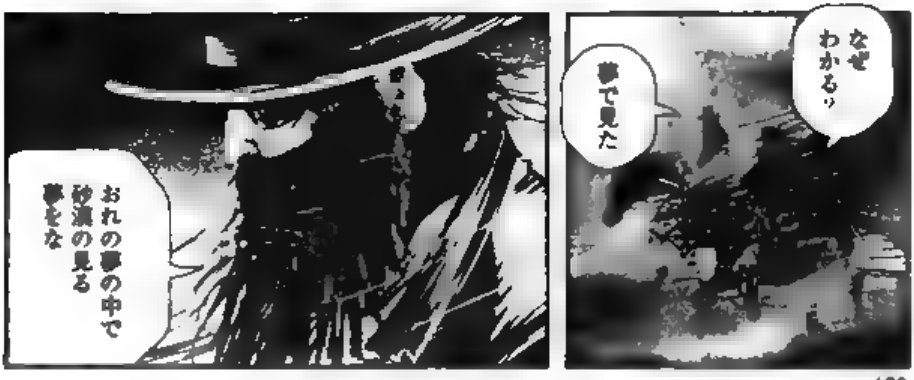


ここで降ろして
あんな所へ行く気かい？
何があるか知らないが無事に帰ってこれるんだろうね？
ここから町まで丸一日の距離だ
お守りは彼らに任せろ


半日待って
戻らなければ――
お前の秒針で
風を消せ
……

ゴオオオオオ


二度
弟が生命を
助けられた
そうだな
礼を言う
おれたちを
狙ったのは
――
砂漠だな
そうだ


なぜ
わかる？
夢で見た
おれの夢の中で
砂漠の見る
夢をな

夢には
本心が
出るものさ
おれの夢は
どうだ？
あんたのだけは
遠慮させて
もらおう
この年齢で
気が狂い
たくはない
……

夢で見たと言ったな？
――これか？
ああ
人間と貴族を一緒にしようなんておかしなことを考えるものだな
この研究所が朽ちても貴族は作動しその成果を砂漠に流し込んだらしい
もっと強くなろうと考えたとしても文句は言えまい

どうする？
……？

足りるか
地・水・火・風
気に入らないな
ガガガ
ガガガ
ガガガ

やるのか…
ふふ…
こうなる日を待った
おまえたちを襲ったのも眠らせてくれると思ったからだ
なぜ 自ら眠りにつかん？
ここなかったそうしたくとも
知るということにはあまりに残刀的だった
教えてくれわし剣道がそうなのか？
ハッ これ
ヒュ！
別のものになりないのではないか
道もか
れが
道もない裏れと
しさを
うと知っても

あれで
終わりか？
カッカッ
ぼろぼろだ。

ゴゴゴゴ

ガラガラ

ヒヒヒヒーン

さあ
お別れだ
いや
ここまで来れたのも
みんな
あんた方のおかげさ
百万遍でも
礼を言うよ
なんだい
もう行っちまう
のかい？
あたしゃ
これからこの鍋を
家に届けるんだけどさ

ねえ
その前に一杯
やってかないかい？
お、
コクリ
おい 娘ちゃん
また会おうぜ
楽しい旅
だったよ
それから
婆さん！
助けに行けと
言った借りは
必ず返すからよ！
当てにしないで
待ってるよ！

〈202〉
ソーントン法律事務所

ようこそ
時間通りだ
さすがは
吸血鬼ハンター"D"
見事
期間内に砂漠を
渡りきったわけだ

"おれにとって
重要な意味を持つ
人物に関する情報"を
提供すると言っていたな
話を聞こう

どうやって
私が先回りしたか
訊かんのかね？
飛行具（ファイヤー）を
操るものは
そうはいない
はずだが

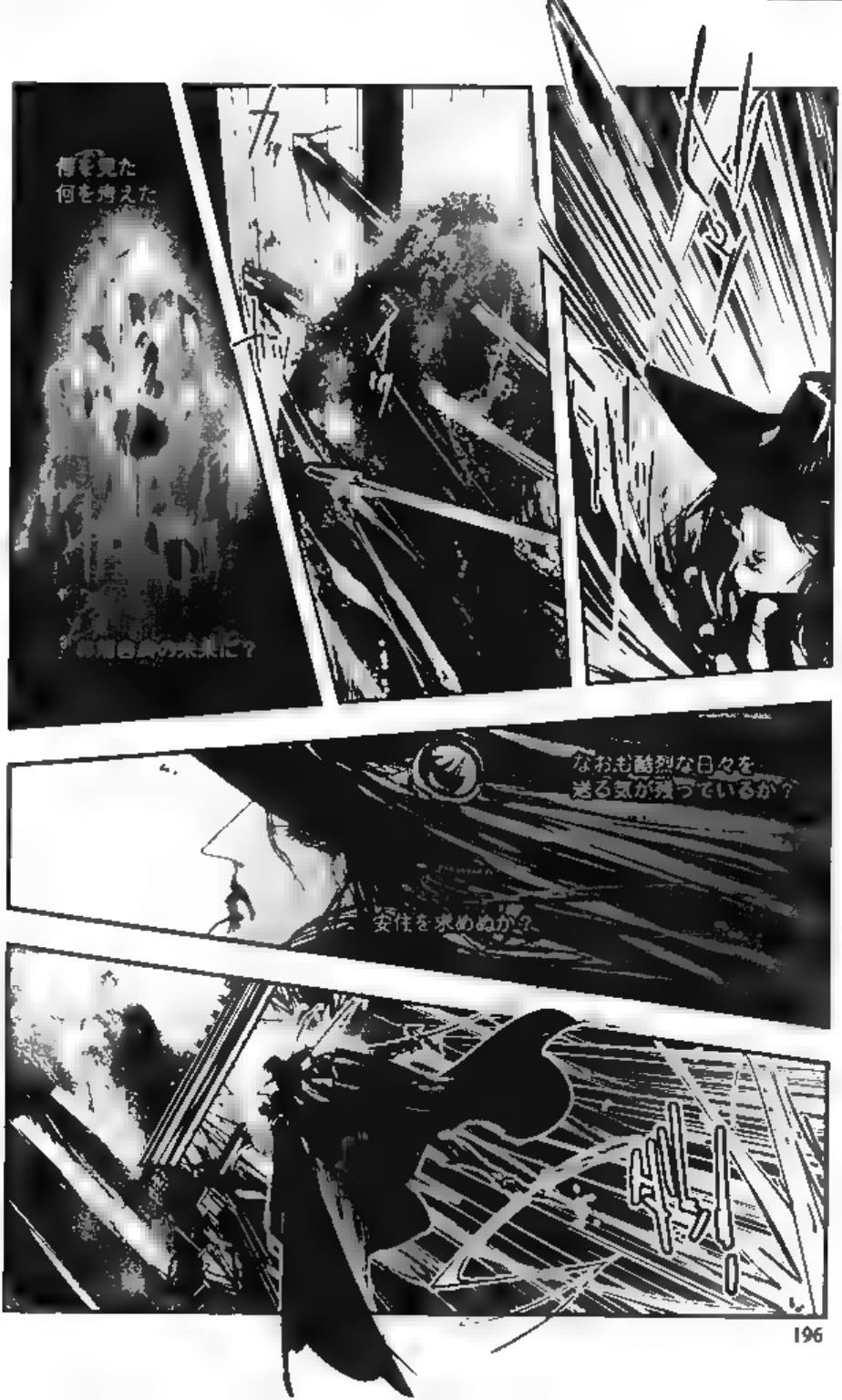
わしがその
ひとりだよ
――旅は
どうだった？

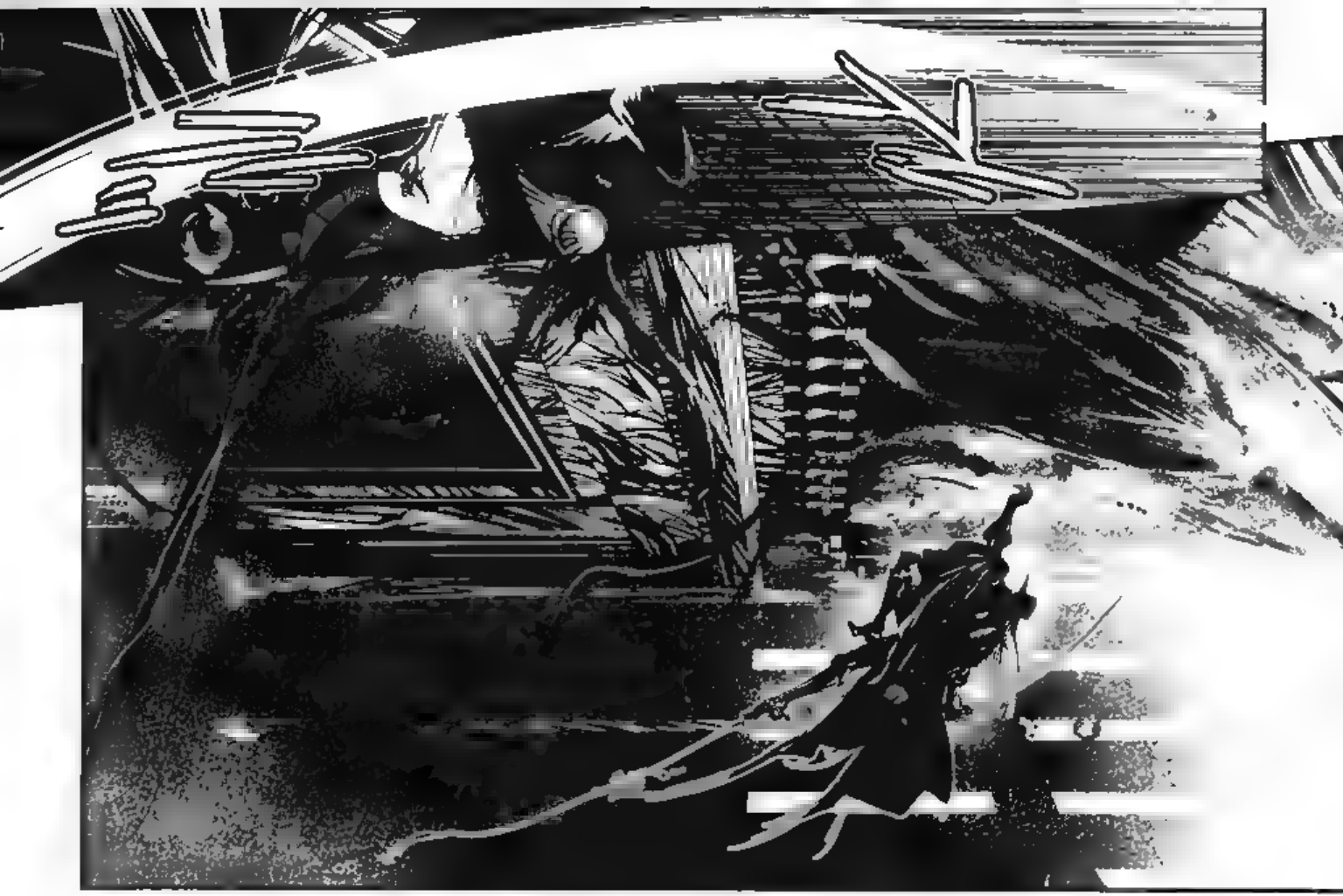
奴とは何処で会った？
彼自身から聞くといい
何処にいる？
この町の南のはずれにある廃屋だ
昔は貴族の屋敷だった
草ぼうぼうだが見てくれより過去の栄光か宿を決める際の条件らしい
今なら眠っているだろう

気をつけい

奴はおる
気配があるぞい

—よく来た
あの砂漠を渡るのは
おまえにとってひとつの試練だった
戦うことがではない
おまえが見たものは 心どうの大路なのだ


何を見た
何を考えた
なおも酷烈な日々を
送る気が残っているか？
安住を求めぬか？

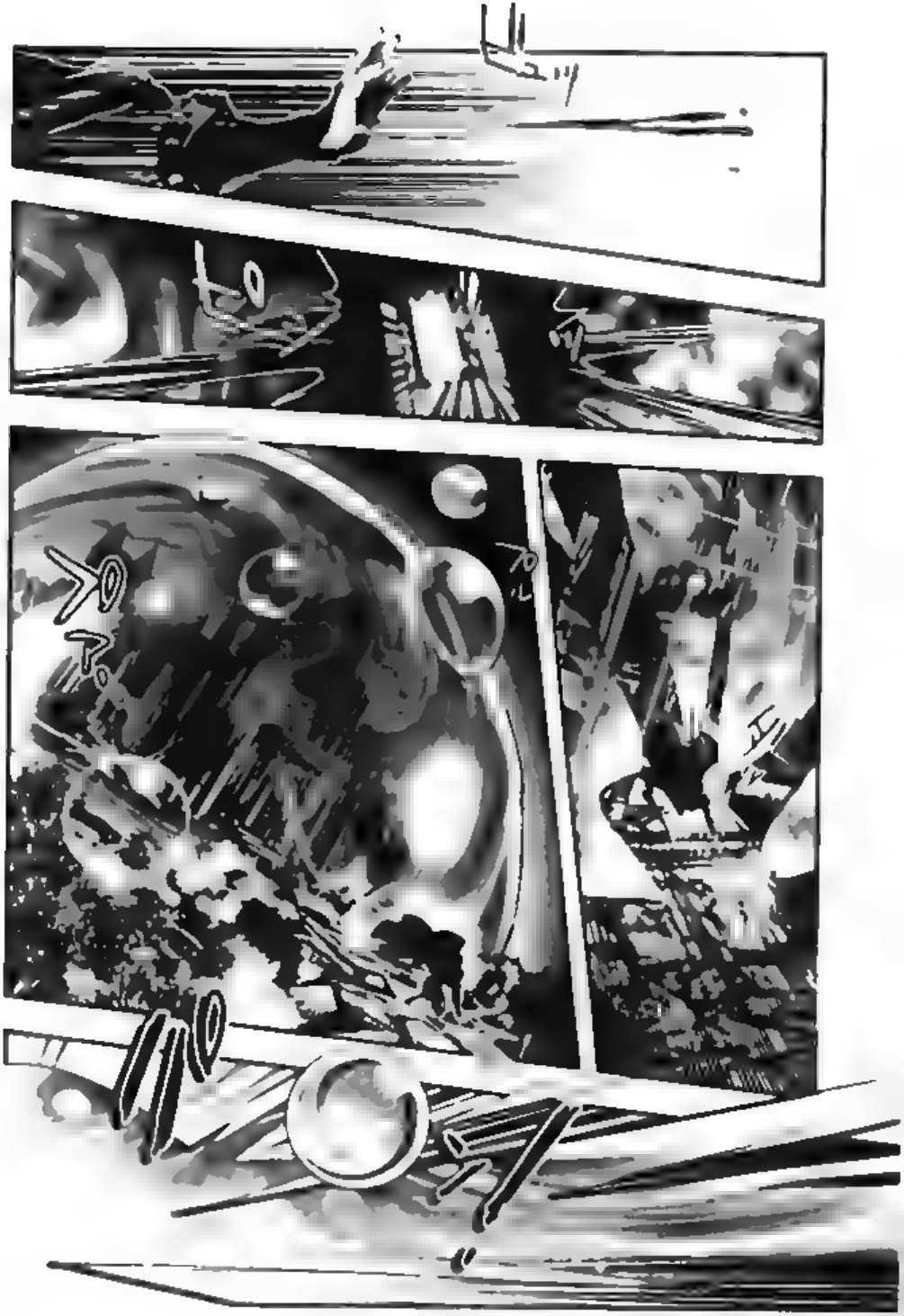


よかろう
――それが答えか

それは過去のイメージの残留思念だ
無駄だ
やめろ

それでこそ
我が唯一の成功例
おまえが
死ぬまで
永遠に

これは――？
夢の中に
囚われたぞ！
夢の主が
目覚めれば
夢ごと消されて
しまうぞ！
急げ！



見事だ
誰に頼まれた？
弟はどうした？
酒場にいる
わかっているのではないか？

無駄だ
夢見るおれも夢だ
…日を改めるか
時間はおまえが決めろ
まかせよう
——明日の早朝
夜明けは400M
330Mにここで
なぜ日中にせん？
なぜいまおれを斬らん？

D

あたし…
我慢する
つもりだったの
何を
言われても
でも……
お腹の赤ちゃんまで
吸血鬼だと言われて…
貴族の
慰みもの
捜索を依頼したのは
お義父さんと
お義母さんよ
あんたたちじゃない
あんたがそばにいると
かえしたちの家に
人が付けられるわよ
ダンピールだ
みんなには
同じなのよ
今夜だけ
ここにいさせて
明日になったら
ひとりで
何とかします
好きに
しろ
どうする
気だ？

ひとりで
何とかすると
言ったな？
ヤッ！
はい
これは
——あなたの
聞くじゃ
ない

はい
すぐ
二人になる
ダンビールの子は
思いやりが
あるそうだ
――例外も
いるが
私…少しだけ
勇気を出します
よかった

子供の頃
父さんから
聞かされていたの
胸の音が
聞こえる
……
ダンピールは
呼吸をしない
だから
心臓も打たないんだって
本気で
信じて
いました
でも
よかった
ダンピールの心臓も
私たちと
同じに鳴るのね
血も
熱いのね
よかった
私の子も
あなたと
同じなのね

今夜はおれが面倒をみる
ガイコ
ヌヴ！
ふざけるな
夜の夜なかにてめえみたいな色気違いと縁を一緒にしとけるか

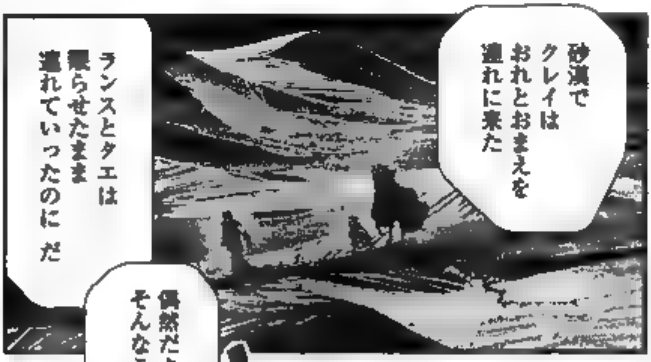
少し
考えたん
だけどね
——起きない
かい？
これで
大丈夫だ
そうかい
二人とも
不幸になるよりは
ひとりが
まともな生活を
送った方が
いいと思うのさ
どうすれば
いいか
わかるだろ
あたしの絵は
人間の内側だけでも
描けるのさ
やるよ
あたしは

手を離せ
ごらんよ……ごらん
見てごらんよ 今のあんたの顔を
タエの子もそうなんだ
どんなにいい男に生まれようが 人間以上の力を持っていようが 最後には その顔が出るんだよ

そのたびに
それまで築いてきた
すべてのものが
お終いになるんだ
一回じゃ
ないよ
そのたびにだ
手を離せ
あんた
今まで何度
その顔をした？
その
貴族の顔を!!
いいや
よさないよ
女の気持ちなんか
わかりゃしないさ
あんたは
ダンピール
だけど男だ

おまえ
ダンピールだな

なにを
……なにを


砂漠で
クレイは
おれとおまえを
連れに来た
ランスとタエは
眠らせたまま
連れていったのに だ
偶然だよ
そんなこと

おれが立てた墓標を
最初ひと目見たとき以外
おまえは眼を
向けようとしなかった
苦手な形
だったか？
……

嘘をおつき
いいがかりを…

……
言いがかりでない証拠がひとつあるぞ
おまえのダンビールに対する情熱だ
あれはダンビールゆえ
やめとくれ！
クレイ！
承知

心臓を
やられた
まだ息があるのは
ダンピール
だからじゃの…
D――
口を
きくな
指図を
おしでないよ
あの娘を
起こすなんて
真似は
やめとくれ
クールに
いきたい
からね
さっさと
しとくれ
もう
ねえ
ちょっと
手を貸って
おくれよ
ガシッ
といつが
何のためにやったか
知らないが
あたしゃもう
助からないさ
いいんだよ
ほうっとき

子供が……
いたんだよ
はは
母親が
ダンピールだから
仲間もそうなるよね
……飛び出して
てっちまってさ
人の十倍は
骨折って育てた
つもりだったのに……
ダンピールなら
ダンピールらしく
生きてやるってね

……でも
仕方ないんだ
婚礼の
前の晩
好きで一緒に
なるはずだった
旦那さんの喉に
牙たてちまったん
だからねえ
血の涙を
流してたっけ

――いい顔して
寝てるねえ
今晩だけかも
しれないよ

あたしは
いつも他人に
あんたみたいな
苦しそうな
怒りっぽい寝顔は
見たことがないって
言われたもんさ

……あ……
さよなら……
やっと楽に
なれそうだよ

フル

何か言っとくれ
あんたから最後の一言をもらうのを忘れてたよ
……愛してるなんて要求しないからさ

あ
そうだ

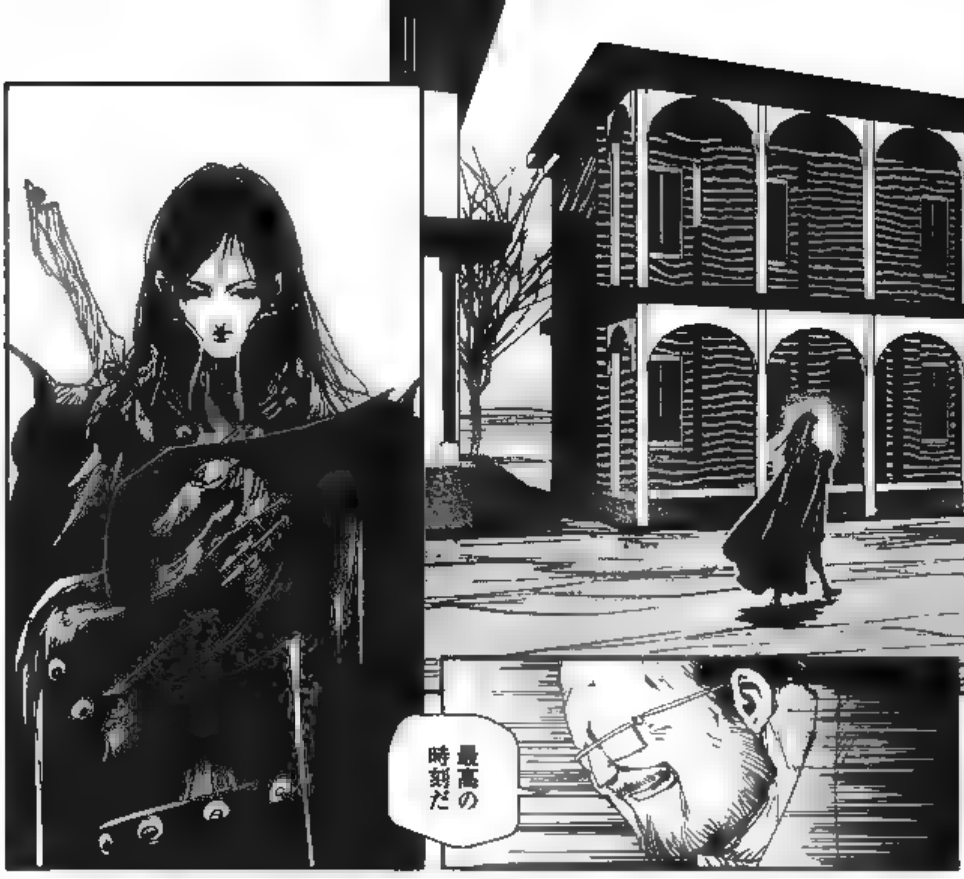
そうかい！

あの娘の子供は逃げはしまい

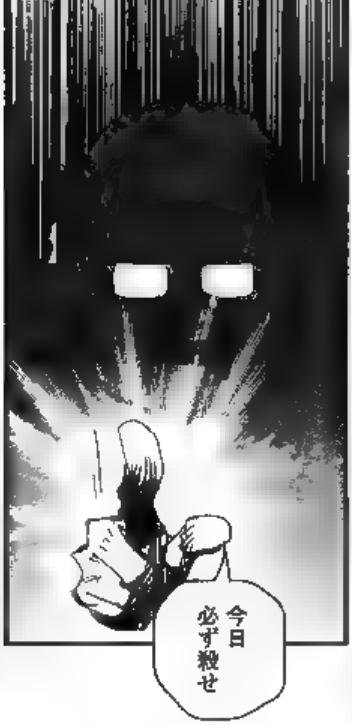
よかったあ……
あんたが保証してくれるんならこりゃもう大丈夫さ
ほっほっほ

すまねえ
逃げられた
明日の
決着は
どうする？
昼に
集合だ
……
おっ死んだ
かい？
葬式を
出さねば
なるまい
日延べして
同じ時刻に
すればいい
おまえたちの
雇い主が
それを望むかな
昼すぎに
会いに行くと
伝えろ

……さんとこの
妹らしい
妹？
死んだって
話じゃ？
……さん夫婦って
今朝早く
町を出てった…？
それが
撃されッ子
だって…


最高の時刻だ

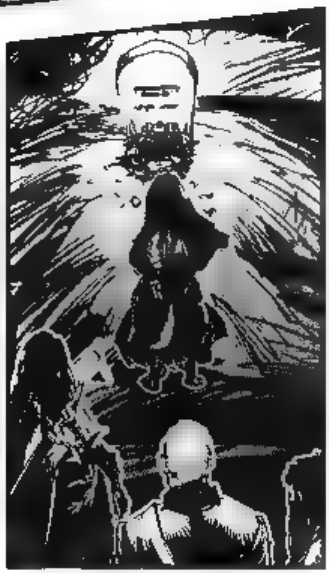
婆さんの死亡手続き葬儀と葬儀馬車の手配――
太陽が真上にある時刻こそ死者の旅にはふさわしい
……
そうは思わんかな？
ダンピールにとって真昼の戦いはその戦闘力の40パーセントを奪われると統計にもある


今日
必ず殺せ

——そう
不快そうな
顔をするな
もとはと言えば
おまえたちが
砂漠で奴を始末
できなかったせいだ

あのハンターを
殺さぬかぎり
報酬は支払われん
わしへの
報酬もだ

コッ



さあてと
わからんものだな
この先に空き地がある
そこで決着をつけようや

はじめて会った晩に片をつけるつもりでいたが……
いまは正直やりたくはないんだ

礼を言う
なんの

おれの夢に
直接触れない
ように
斬るとは
…
しまった
…目覚め…

やべえ！
兄貴！
きゃっ

!?
マント!?
なんて速さだ!?
クソっ
この位置じゃ……兄貴が邪魔だ…
…もっと…

……う
まだ…

ガアッ!

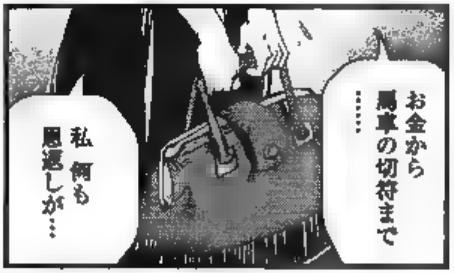
……これで…
……借りは返せたか?……
十分だ
そうかい……ついでにひとつ
……おれたちの雇い主は……ソーントンだぜ
今のは奴の別の殺し屋……だ
……婆さんをやったのも…

わかった
……なら……
フル…
決着を…
ついてねえや

怖いか？
ええ
ハンターには
させんことだ
まかせます
この子に

でも――
ハンターにならなくても私の見た吸血鬼ハンターのような大人になれるよう育てます

もう乗り合い馬車の出る時刻だ


お金から馬車の切符まで……
私 何も恩返しが…

はい きっと
いつか元気な声が聞けるな

あの銃弾機で
こしらえた
ものです
これでなんとか
やっていけると
思います
お婆さんの
おかげですわね
血なんかつながって
いないのに
私 そんな人にばかり
助けてもらえました
おれはまた
町に用がある
遠者でな
あなたも
お元気で

さて
時間じゃ

あとがき6

四十肩になりました

私が自分で調べて「あ～、そういうことか～」となったコトを並べたてているので、勘違いや個人差があったりするコトもあるかと思います。あくまでも「個人の体験」ちゅうことでご了承ください。

四十肩（五十肩ともいう）＝肩関節周囲炎 英語だと frozen shoulder

安静にするのが一番なんですが、そうもいかないわけで…

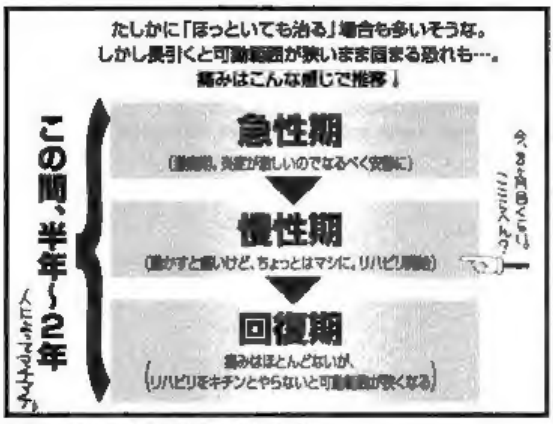
…とまあ、ナンダカンダ言っても　ミもフタもないけど。

とにかく痛いのヨ

痛みを一言で思い表すとすれば…

なんせ、何もしなくても痛い。腕の重みで痛い。寝てても痛い。というか痛くて眠れなかったり、起床時に更に激痛だったりでゆっくり休めなくて精神的にもキツい。無意識に腕を捻ったりすると息が止まるような痛みで声もなくのたうち回ることも。しかしどんなに痛くても特効薬はないので、炎症を抑える痛み止めや湿布、関節にヒアルロン酸注射。でも人によって効いたり効かなかったり…。

注射は4回打ちましたが効果はイマイチ…



てなわけで、現在絶賛リハビリ中…

肩甲骨の運動はダイエットにも良いそうですよvv

スミマセン。特に予定ないデスが

この本をお買いあげ下さった読者の皆様
菊地先生
編集スタッフさんズに感謝!
そして世界中の誰もが平和で健やかな毎日を送れますように…

おお、早く健康になりたい～。と四高がツライ今日この頃…。

Hideyuki Kikuchi's Vampire Hunter D Volume 6
Adapted and Illustrated by Saiko Takaki
Copyright © 2012 by DIGITAL MANGA,Inc. All rights reserved. Original story and characters created and copyright © Hideyuki Kikuchi 2012.
All other respective characters are registered trademarks of DIGITAL MANGA,INC.
Originally published in the U.S.A. by DIGITAL MANGA,INC.
Japanese Edition Rights under license granted by DIGITAL MANGA,INC.

MFコミックス
バンパイアハンターD 6

発行　2012年1月31日　初版第一刷発行

著者　鷹本敬子

原作　菊地秀行

発行人　三坂泰二

発行所　株式会社メディアファクトリー
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷3-3-5
電話　0570-002-001
（カスタマーサポートセンター）

印刷・製本　大日本印刷株式会社

乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。
本書の内容を無断で複製・複写・放送・
データ配信などをすることは、かたくお断りします。
定価はカバーに表示してあります。

©2012 Hideyuki Kikuchi, Saiko Takaki
Printed in Japan
ISBN 978-4-8401-4084-3 C9979

コミックスのアンケートは

こちらでアクセス!

お答えいただいた方全員に、コミックスで使用している画像の無料待ち受けプレゼント!

※サイトにアクセスする際や、登録・メール送信時にかかる通信費はご負担ください。
※アンケートにご回答いただいた内容を第三者に開示することはありません。